



エネルギー資源の動向

元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

米 LNG輸出急増

(毎日新聞2017.7.12より)

米国の液化天然ガス (LNG) の輸出が急増している。豊富なシェールガスを海上輸送する液化・輸出施設が整い始めたため、トランプ大統領も貿易赤字削減や対ロシアけん制の方策として、中国やインド、欧州諸国へと売り込みをかける。LNGの価格決定は長年、中東が主導権を握ってきたが、新たな輸出国として米国が登場したことで市場に構造変化をもたらす可能性がある。(後略)

シェールガスは地下2000mくらいのかたい頁岩層から採掘される天然ガスです。アメリカ合衆国で技術開発が進み、2006年以降生産が本格化しました。石炭や石油に比べて温室効果ガスの排出量が少なく、地球温暖化防止の効果も期待されます。ここでは、『社会科 中学生の地理』p.82～83の学習に関連づけて「エネルギー資源の動向」とします。

アメリカ合衆国では2006年以降、シェールガスの採掘が本格化すると天然ガス輸入量は減少し、国内価格も低下しました。これが「シェール革命」で、エネルギー分野における21世紀最大の変革といわれます。

掘削技術の開発によってシェールガスは、石炭や石油、従来の天然ガスとともに重要なエネルギー資源となりました。その普及にはほかのエネルギー資源との価格の差が課題になります。生産コストは生産地域ごとに生産量や井戸の深度が異なることや企業が情報を非公開としているので正確な数値は示せませんが、通常の天然ガス生産コストの数倍と考えられています。

しかし、2004年の原油価格の高騰に天然ガス価格も連動し、前年より1.5倍も高騰しました。このことにより、シェールガスの生産コストが採算にみあうものとなりアメリカ合衆国内での開発が一気に進みました。2008年以降、大手石油会社が参画し増産がはかられ、2009年以降は世界最大の天然ガス生産国になっています(図1)。価格も国際的な天然ガスの価格に対して低い水準を維持しています。

その一方で、アメリカ合衆国の天然ガス輸入

量は輸出量を上まわっており、おもにカナダからパイプラインで輸入しています。しかし、シェールガスの増産により、2020年までには純輸出国になることが予想されています。

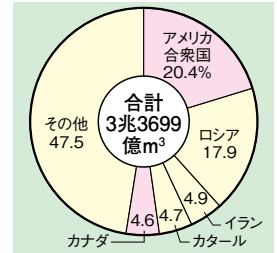


図1 天然ガスの生産 (2013年) (BP資料) (『社会科 中学生の地理』p.83)

現在、天然ガスの最大の輸出国はロシアです(図2)。トランプ大統領は、2017年8月に対ロシア制裁強化法案に署名しました。条文には、アメリカ合衆国の同盟国であるEUを助けるために、アメリカ合衆国のエネルギー資源の輸出を優先すべきだと明記しています。

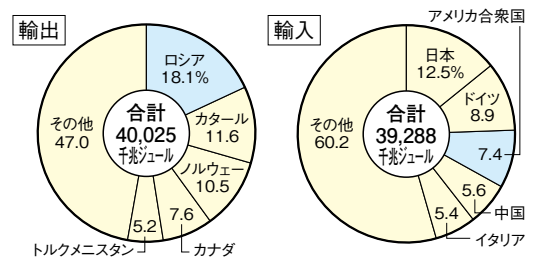


図2 天然ガスの輸出入 (2014年) (Energy Statistics Yearbook 2014)

現在、ロシアとEU諸国を結ぶ海底パイプラインの敷設が進んでいます。EUの天然ガス消費量の3割はロシアからの輸入です。トランプ大統領の「アメリカ第一主義」がその輸入にストップをかけようとしています。エネルギー資源を有する国の動向が世界に及ぼす影響は、石油危機(1973年)が明らかにしました。今後のアメリカ合衆国の動きに注目しましょう。